

# 12月 月例会報告

【日 時】令和 7年12月27日 (土曜日) 13時から17時  
【会 場】中央区・佃 区民館 【参加者 19名 リモート参加 5名】

## 第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表 題名: 「地球の気候変動②日本列島の事」 齋藤 隆雄氏

- (1) 説明趣旨:  
前回発表(4月度)の補足的な観点から、前回話せなかったことなどを、日本列島中心に説明がありました。
  - (2) 発表項目:  
①日本海の誕生、②地震と津波(和田家文書の記事を含む) ③地球の磁場と反転④年縞  
⑤ネアンデルタール人の絶滅、などでした。
  - (3) 論点・質疑等:  
①ネアンデルタール人に関する質疑が4件、②日本海の変遷、③地磁気の逆転現象の頻度、  
などで合計9件ほどありました。
  - (4) 感想:  
①緻密な資料に基づく丁寧な説明で分かりやすかった。予定時間通りに説明が終了したのは流石でした。  
②活発な質疑応答は、そのまま懇談会へ突入か、と思いました。(発表75分、質疑30分)
- 【懇談会】  
橘高氏から「古代史セミナー2026」に関して、テーマ・講師・形式などの要望提案・意見をHPで募集するとの話題提供がありました。これを受けて、「DNA分析の若手学者の招請、ニギノミコトの降臨と東にある土井ヶ浜遺跡、AIを使った古田説の流布拡大、中山千夏を呼ぶ」などの意見がでました。  
一方、今回のセミナーでの一部講師への批判が相次ぎました。(30分)

## 第二部 【勉強会と読書会】

1. 【勉強会】 「古田武彦『ここに古代王朝ありき』」 その3 新保 高之氏

- (1) 説明対象:  
第二部〔文字の考古学〕の第一章〔仿製鏡〕と第二章〔三角縁神獣鏡〕でした
- (2) 説明内容:  
①各章の主要点を抽出して解説と②各章の各節の要点事項を説明でした。
- (3) 質疑等:  
①左文鏡が押印鏡であること、②関川先生の「古墳時代への始まりが早まっている」との説明との関連、  
③中国鏡には紐をつけるための孔がある、などでした。(解説・質疑45分)

2. 【読書会】 『日本書紀』 「雄略紀 新規その3」 新保 高之氏

- (1) 対象:  
九年2月～十二年10月条
- (2) 履修内容、  
①対象期間の主要記事を提示して、②各年条の原文を示し付注を説明した後に現代語訳文を朗読しました。  
「トピック②として、「雄略紀は説話的な記事が満載」を一覧表等による説明がありました。
- (3) 質疑・意見等  
①九年五月条の「四海」とは、天下のことである。②同条の「角国」はどこか(長門か?)。  
③「呉」は応神紀に初出して雄略紀に十七回登場する。これは南朝のことだが、岩波訓注は「くれ」とする。  
織物に関連する記述が多く含まれている。(解説・質疑30分)

ご意見・ご質問はメールで [info@tokyo-furutakai.com](mailto:info@tokyo-furutakai.com) までお寄せ下さい。